

驚田清一
とともに考える
パート2

ドートクの じかん

こんかいのとくもく

1

じかんめ

親切

せんだいメディアテーク館長の驚田清一が、
各分野のプロフェッショナルからお話をうかがいながら、
いま、メディアテークを通してみえる現代社会の状況や課題について考えを
深めていく「驚田清一とともに考える」の新シリーズ。
「ドートクのじかん」と銘打ち、あらためて「徳目」*のほんとうの意味について、
ゲストの考えを起点としながら、来場者とともにひも解いていきます。
今回の徳目は「親切」。「食えること」や「農業をすること」の歴史を研究し、
注目を浴びる藤原辰史さんをお招きし、対話を重ねます。

*徳目（とくもく）…道徳の細目。忠・孝・仁・義など、徳を分類した名目のこと。

「ドートクのじかん」とは

ゲスト

ふじ はら たつ し
藤原辰史

農業史研究者
京都大学人文科学研究所 准教授

ホスト

わし だ きよ かず
驚田清一

せんだいメディアテーク館長
哲学者

にちじ・かいじよう

2019.6.29(土)
14:00-16:00

せんだいメディアテーク
1階 オープンスクエア

参加無料・申込不要・先着160席

お問い合わせ

せんだいメディアテーク 企画・活動支援室
〒980-0821 仙台市青葉区春日町2-1
[Tel] 022-713-4483 [Fax] 022-713-4482
[Mail] office@smt.city.sendai.jp [Web] www.smt.jp
助成：一般社団法人 地域創造

プロフィール

藤原 辰史（ふじはら たつし）

農業史研究者。京都大学人文科学研究所准教授。1976年北海道生まれ。京都大学大学院 人間・環境学研究科博士課程中途退学。2002年京都大学人文科学研究所助手、東京大学大学院農学生命科学研究科講師を経て現職。主な著書に、『ナチス・ドイツの有機農業』（柏書房）、『カブラの冬』（人文書院）、『ナチスのキッチン』（水声社 2012年、共和国＝決定版 2016年、第1回河合隼雄学芸賞）、『稲の大東亜共栄圏』（吉川弘文館）、『食えること考えること』（共和国）、『戦争と農業』（集英社インターナショナル新書）、『トラクターの世界史』（中公新書）、『給食の歴史』（岩波新書）、『食べるとはどういうことか』（農山漁村文化協会）、『分解の哲学』（青土社、近刊）など多数。

驚田 清一（わしだ きよかず）

哲学者。1949年生まれ。京都大学文学部卒業、同大学院修了。大阪大学教授・総長、京都市立芸術大学理事長・学長などを歴任。これまで哲学の視点から、身体、他者、言葉、教育、アート、ケアなどを論じるとともに、さまざまな社会・文化批評をおこなってきた。著書に、『モードの迷宮』（ちくま学芸文庫、サントリー学芸賞）、『「聴く」ことの力』（ちくま学芸文庫、桑原武夫学芸賞）、『「ぐずぐず」の理由』（角川選書、読売文学賞）、『しんがりの思想』（角川新書）など多数。現在「折々のことば」（朝日新聞）連載中。